

外国人介護福祉士候補者の

【国試対策情報】

月報 第12号

「日本語教育と国語教育の違い」はどう違うのか？！

	日本語教育	国語教育
学習者の国籍	外国人	日本人
言語	多種多様	日本語
年齢	多種多様	学年制のため同一
職業	多種多様	生徒・学生
文化	多種多様	同一

1、教育効果が上がらないのはなぜか？

二つの教育の領域は、左表のように完全に異なっていることがお分かりでしょうか。この違いを考えると、外国人に対する日本語教育の方法を身につけていないと教えるのが難しいということが分かります。

単に、元国語教師とか教育経験者などが、国語を教える方法で外国人に日本語を教えるという、安易な考え方では教育効果が上がらないのは、上表の違いから当然のことです。

2、なぜ国家試験合格率が低いのか？

上表の違いを日本語教育担当者や教師が知らないままに、ただ闇雲に国家試験過去問題集を教材として、「言葉の説明役」をしていることが大きな原因です。

それに対して、長い時間受験者は、言葉の説明をほとんど理解できないままに過ごし、意味不明の日本語音を聞かされることで、ますます学習意欲がそがれてしまい、いわゆる「モチベーションが上がらない精神状態」を作らされていることが大きな原因です。

そして、外国語としての日本語を「無規則、無秩序」に教え込まれているために、ますます、日本語に対する混乱を与えられてしまい、結果的には、受験者の外国語対応能力をも失われるために合格できなくなるのです。

3、教育の本質的な違い

日本語教育は、多種多様な外国人に対して、「日本語の規則性と用法ならびに、その運用能力を養うための教育」を学習目的とするものです。

それに対して国語教育は、「正しく、そして、美しく言葉を使う能力を養う」ことを目的とした教育です。国家試験受験能力を養うためには、この「本質的な教育の質の違い」を認識した上で、日本語教育を行う必要があります。

★★★ この本質的な違いを理解していない「自称日本語教師や日本語学校教師ならびに、大学の日本語講師など」は、教育効果を十分に上げられないにも関わらず、改善することなく、混乱した教育を未だに行っています。

その証として指摘できることは、介護士・看護師候補者が「入国直後に集中教育約700時間」を受けているにも関わらず、ほとんど日本語能力が無いままに、各施設に入職させられています。このことだけを考えても、入国直後の「教育の質」がいかに低いものであるかが分かります。受け入れ施設の関係者の中では、すでにこの実態は周知の事実となっています。その最大の原因は、入国直後の教育実施機関が「日本語教育と国語教育の違い」を十分に認識していないことにあります。

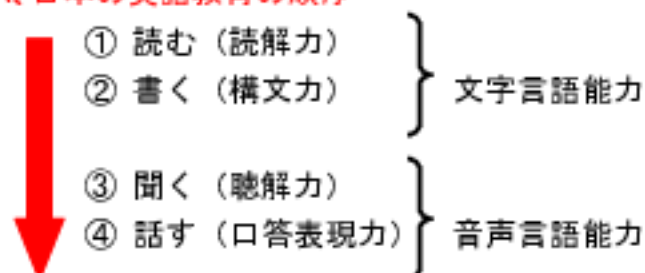
< 施設の声（来年1月に国家試験を控えている施設の状況）>

- その1、** 来年1月に国家試験受験を控えているが、事業団の試験は40%程度しかとれない。候補者二名を受入れていたが、一名はすでに帰国し、残り一名も「合否に関わらず帰国する」とすでに言われている。日本語学習は、日本語学校に任せていたが、能力もたいてい上がらず正直、成果はでなかった。また、最近になって受験者から、「日本語学校での日本語学習では分からなかった」と言われてしまった。もう少し早く施設内で、「学習方法を改善」していれば、学習意欲が下がる前に対処できたのではないかと思います、残念。（山梨県・F施設）
- その2、** 毎月、月報を読んでいる。＜施設の声＞に、「入職当初から日本語学校や教師に依頼して指導しているけれど、効果が出ていない」という声を見ますが、うちも、日本語教師に依頼してきましたが、候補者二名ともに能力は低く、合格できる確信はありません。御社の試験も実施したい気持ちがありましたが、すでに、助成金は日本語教師に使い果たしており、試験を受けて指導していただくことができないのが残念。（東京都・N施設）
- その3、** 日本語能力が低く、国家試験対策ができるまでの日本語力には至っていない。候補者二名を受入れていたが、一名はすでに帰国、残り一名も学習意欲は全くなく、助成金すら申請していない状況。このような状況になる前に、毎月送られてくる月報を参考にもう少し早く、対処していれば良かったと後悔している。（大阪府・I施設）
- その4、** 候補者二名を受入れているが、入職当初から学習する意欲は低かった。在宅の学習のみしているため、事業団の研修にも参加していない。以前からすでに、一人はアメリカに行き、一人は帰国すると言われていた。二名ともに仕事は問題なくよくやっていて、利用者さんからの評判も良いですが、合否に関わらずいなくなってしまう。こんな状態では何のために受入れたのか分からなくて、虚しい気になった。（大阪府・U施設）
- その5、** 日本に留学経験があり、日本語の能力は高いと判断しているが、客観的な言語能力のレベルは分からない。国家試験対策は順調だが、不安はある。（東京都・H施設）
- その6、** 国家試験対策については、日本語教師と看護師をつけて指導している。しかし、事業団の試験だけでは実力が分からないために不安だ。（福岡県・M施設）
- その7、** 日本語教師に依頼しながら、職員が国家試験対策を中心に学習指導していて、順調に進んでいるとは感じている。しかし、「受験能力」がどの程度養われているのかといった受験者の能力査定は特にしていなので、能力をはっきりと把握しきれていないのが現状。色々な模擬試験を受けさせながら、問題に慣らししていけたらと考えている。（山口県・K施設）

《 「施設内での日本語指導の仕方」 シリーズ 第一回目 》

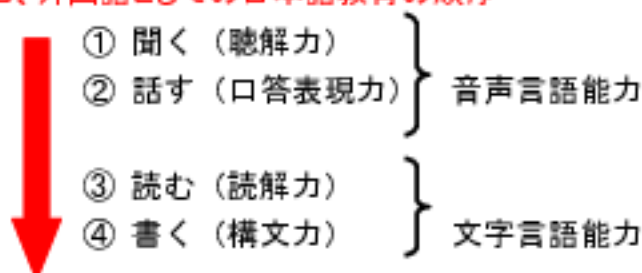
★「外国語習得の順序の違い」

A、日本の英語教育の順序



※ A図の順序で教育しても、読み書きだけが優先され、話す力を養われない。そして、瞬時に反応する力（瞬時反応能力）も養われずに、言葉（語彙）の暗記に終始するため、構文力も身につかず、中途半端な教育となる。

B、外国語としての日本語教育の順序



※ B図の順序で教育することで、人間が言葉を習得する過程に沿って、外国語としての日本語を学べ、自然に言葉の習得ができ、「音から文字へ」と移行するために、読み書きが無理なくできる。話す力がある程度できる段階になると、人間の本能として、文字に対する習得する欲求が高まり、非漢字圏の候補者であっても、一定程度の漢字に対する書く能力を養うことができる。

上の二つの図を見て、私たちが英語教育を受けた順序は、外国語習得の順序とは全く逆であることが分かります。現在の日本語教育分野においても、日本の英語教育と同じような方針で行っているのが現状です。

特に、非漢字圏の候補生にとっては、難しい漢字を読み書きさせること自体が非常に苦痛な勉強となり、日本語に対する学習意欲を失っている実態が多くあります。

人間が誕生してから、その国の言葉を習得していく過程を【言語習得過程】と言います。

生まれながらにして人間は、読み書きを始める能力はありません。そのために、誕生してから3歳～4歳時までは、基本的には音声言語の範囲で言葉を習得します。

つまり、上記の四つの基本技能に基づいて言葉を習得し、音声だけで人との意志疎通を図って、基本的な「言葉の仕組み」を理解した上で、次の段階の文字言語能力を身につけていくわけです。

注

2014年、15年度「国家試験受験者」対象 <10分間テスト(無料)> 実施中！！

受験者の「受験能力」はどの程度あるのか？ 日頃の指導がどれだけ身につけているのか？ 疑問を持ったことはありませんか？

確実に「合格」を目指すのなら、受験者の「会話力」だけで判断せずに、プロの診断を受けてみて下さい。新たな発見が必ずあるはずです。

★★「8つの言語技能」に分けて細かく分析し、考察を返却後、「教育相談」も実施しています。

<テストを体験した施設職員の声>

1、日本語のでき具合について、事業団の試験だけでは不安で、この機会に受けてみたが、予想以上の低さに気づき、ショックだった。「過去問題が解けない原因」もよく分かった。

2、「できる」と思い込んでいたが、学習指導の見直しを考える機会となった。御社の教材と試験制度には興味があったので、この機会に「継続」して指導をお願いする方向で考えたい。考察の指摘が的確であったことと、何よりも言語研究の先生とのお話しが参考になった。

※ 60分間の試験(有料)は、「10言語技能」からより詳しく分析して、指導・考察ができます。

【国家試験受験能力到達度】チェック

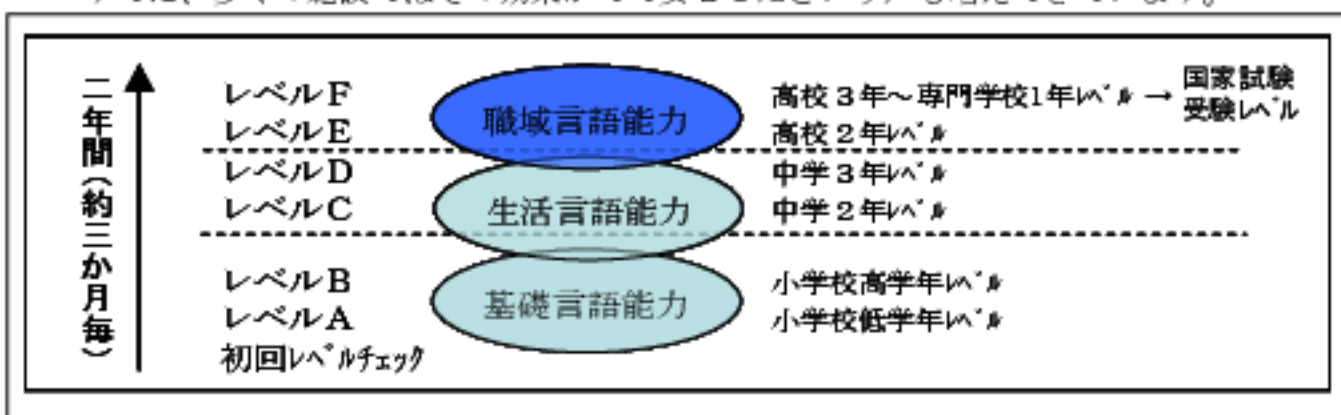
当社では、外国人介護士候補者のために【言語能力】を段階的にチェックする（A～Dレベル）と、【国家試験受験能力】をみる（E・Fレベル）を実施しています。

※ 受験者には試験結果に基づき、考察表（言語能力到達度）にあわせて、学習アドバイスをしていますので、現在依頼している日本語教師任せにせず、施設担当者が、客観的な「考察表評価」に基づいて現状を把握することが、日語能力を伸ばすために重要です。

※ そのためには、**3ヶ月単位で日本語力をチェックすることが大切です！**

常に、貴施設で働く外国人の日本語能力の変化を、客観的な数値で評価できる定期テストを重要視しましょう。その理由は、**国家試験受験能力は、試験問題が理解できる能力（読解力）をいい、合格能力は試験問題に対し、正しく答えられる能力（知識力）をいいます。**

※ 今後、貴施設の安定した運営のためにも、ぜひ定期テストを受けることをおすすめします。すでに、多くの施設ではその効果がでて安心したという声も増えてきています。



【国家試験受験能力到達度】チェックと【教材】申し込み書 <送付先：FAX 03-6677-0632>

施設名：	ご担当者名：		
所在地：〒	FAX：		
電話：	メールアドレス：		
受験者名：	国名：	受験人数：	名

<単発受験> ※ ご希望の受験形態に□「レ点」を記入願います。下記の料金は受験者1名あたりの金額です。

□ 各受験段階で1回あたり @9,450円 × 名	合計金額	円
---------------------------	------	---

<継続受験>

□ 受験段階初回からの場合 @7,350 × 10回 = 73,500円 × 名	合計金額	円
□ 受験段階Aからの場合 @7,350 × 9回 = 66,150円 × 名	合計金額	円
□ 受験段階Bからの場合 @7,350 × 8回 = 58,800円 × 名	合計金額	円

※ この試験は国家試験受験能力を養うために実施しますので、約三年間分の受験料金となります。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ） ひらがなかーど（ ） 漢字の一と1（ ）

100万人の日本語No.2（ ） ひらがなの一と（ ） 漢字の一と2（ ）

100万人の日本語No.3（ ） カタカナノート（ ）

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田3-2-13 石田ビル303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotoba_ken@yahoo.co.jp

《 学習者が勉強したくなる！ 楽しく・分かりやすい専門教材 》

【 基礎言語能力レベル I 】

- 【 教材の特徴 】 ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている



【 テキスト 「100万人の日本語 No.1」 】

日本語の基礎知識を身近な事例で、分かりやすい文で書かれており、特に「だれが・なにを・どこで・いつ・どうする」を使って、「規則性とその用法」が学べ、自在に会話力がつくような内容になっています。

- ※ 習得漢字数 360字～380字
※ 習得語彙数 520語～1,560語



【 漢字のひとと1 】

□
『100万人の日本語No.1』に沿った構成となっており、「文型・文の作り方」が習得しながら、効果的に漢字の読み書きが習得できる本になっています。
日本語学習の学習者が漢字習得をする上で最適です。
また、中国人学習者にも同様です。



【 ひらがなのひとと 】

□
ひらがな文の習得に最適な教材です。今更や書き順練習だけでなく、日本語の基礎となる「質問と答え」の仕方にも必要な発音方法が学べます。
身近な事例を使って学習でき、社会生活に必要な語彙も同時に学べ使える教材です。



【 ひらがなひとと 】

□
表裏にはひらがな文字が一文字ずつ書かれて、裏面にその文字を使った語のイラストが色彩鮮やかに描かれています。
イラスト面には「ひらがな・カタカナ・漢字」の3層面での言葉が表記されており、学習者が文字を比較しながら、自学できるつくりになっています。
基礎的な日本語学習に最適な内容になっています。

【 基礎言語能力レベル II 】



【 テキスト 「100万人の日本語 No.2」 】

□
会社や学校、家庭内など場違いにおける会話を中心とした場面、社会生活に必要な知識を習得しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。
さらに、本テキストを修了すると、「自分の見方や考え方を他者に伝える能力が身につくよう」に作られています。各ページで、日本語のあらゆる規則性と用法が学べます。

- ※ 習得漢字数 420字～540字
※ 習得語彙数 570語～1,710語



【 漢字ノート(2) 】

□
『100万人の日本語No.2』に沿った内容で、漢字習得と文の作成練習だけでなく、文章に対する読解力も、同時に養えるように作られています。
漢字が「へん・つくり」の付録もあり、「漢字の成り立ち」に対する理解ができる内容となっています。
日本語の学習者が漢字を習得する上で最適です。また、中国人には、日本の漢字を理解させる付録があります。



【 カタカナノート 】

□
カタカナ語を使った場面を表すイラストが各ページにあります。
このノートは、説明文と会話文が繰り返されて作られています。
場面を紹介する文は、外見の描写と、その言動の描写をしながら、情景描写によって、読解力と文法の使用力を養えるようになっています。

【 レベルIとレベルIIの違い 】

レベルIは、日本語を学ぶ上で重要な「規則性と用法」を学習して、【聞く・話す・読む・書く】を基本とし、日本人と同等の力を養うことができる能力を育てます。
レベルIIは、会話文を中心に「思いや考え」を日本語で表現できる能力を養います。

【 生活言語能力レベル III 】



【 テキスト 「100万人の日本語 No.3」 】

□
テキストNo.1とNo.2とは違い、No.3では職場での日本語力が発揮できるように、取られた登場人物の日常的な生活と仕事を通して、「日本語の使い方(運用)力」が養えるように作られています。
そして、登場人物を通じて、会社での習慣や礼儀作法なども合わせて理解できることが特徴です。

- ※ 習得漢字数 650字～1,700字
※ 習得語彙数 1,110語～3,230語

【 レベルIIIの特徴 】

日本語的な表現、特に「語感」を習得し、人間関係を考慮した専門領域での日常会話ができる能力を高め、職場での意思伝達ができるようになります。 語の種類と文の構造を使い分けながら、要約する能力を養うことで、職場での報告書やレポートが書ける能力が身につけられます。
また、日本事情の知識も得られるのが特徴です。

学習段階	教材一覧	価格
レベル I	「ひらがなひとと」	¥ 1,080
	「100万人の日本語No.1」	¥ 2,550
	「ひらがなのひとと」	¥ 1,800
	「漢字のひとと1」	¥ 1,360
レベル II	「100万人の日本語No.2」	¥ 2,550
	「カタカナノート」	¥ 1,360
	「漢字のひとと2」	¥ 1,360
レベル III	「100万人の日本語No.3」	¥ 3,000

※ 送料は別途